

齋藤さんの思い出

牧野 潔夫

早いもので齋藤さんが亡くなって3年経ってしまいました。既に現役を引退している私には数式処理学会の現状はよくわかりませんが齋藤さんをご存知の方も以前ほど多くはない様です。思い出話を書かせてもらいます。私の記憶に頼るだけなので正確な話とは限りません。また以前名誉会員に推薦された時に話した事と重なっている部分もあります。

私が齋藤さんとお会いしたのは数式処理学会ができる少し前だと思います。その頃齋藤先生(上智大学にいた頃なのでこう書きます)のところのY君という学生さんがいてある時17インチのディスプレイ(当然ブラウン管です)を齋藤先生経由で購入して齋藤先生とY君に運んでもらったことがあります。若い方々はブラウン管ディスプレイの重さをご存知ないかと思いますが21インチのものは"決して1人で持つな"と箱等に注意書きがあります。それを17インチですがY君は車と家の間(十数メートル)を雨の中なるべく濡れない様に肩に担いで走る様にして運んでくれました。世の中にはこのような人間もいるのかと驚きました。

その後PCでUNIXが動くということで齋藤先生のところへそのコピーをお願いに行きました。この話は以前したことがあります。HDD, CDなどの普及する前でフロッピーディスク5箱(=50枚)を持って数時間かけてコピーしました。

それ以後齋藤先生と親しくなり上智大学や研究会でお会いする時は食事や休憩の場所を一緒にしていろんな話をしました。といっても研究分野が異なるので話はPCのことが殆どでした。その頃はLinuxやFreeBSDなどのPC UNIXの最初期の頃に齋藤先生も私もこの方面では"病気"でしたので自作PCの話等も含めていつも盛り上がりました。ただ齋藤さんはFreeBSD派で私は手に入れるのが楽な主流派のLinux派でした。

年代は前後しますが齋藤さんと話した事で記憶があるのは、CPUの背中を磨いた事、耐水サンドペーパーは800番より1200番の方が良い、その方がクーラーと密着してよりclockupができる、cpuファンをつけないで試しに電源を入れたら雷鳥(AMD thunderbird¹⁾)の焼き鳥ができた事、BIOSが飛んで他の正常なマザーを使って書き直した事、グリスの塗り方、下駄を加工してdual不可なCPUを可能にした事、粘着テープで下駄の接点の一部を絶縁してCPU電圧を0.05V~0.1V程度あげた事(専門用語で"カット入れ"と言います)などです。今でもよくやったも

¹⁾雷鳥とthunderbirdは異なります

のだと感心します。

しかし何といっても思い出深いのは富士通の人たちやいろんな大学の先生方と一緒に飯山の方へ研修(?)旅行したことです。富士通の寮や齋藤先生の知り合いの宿泊所などで楽しく過ごしました。また京都大学の数理解析研の研究集会などでも一緒にの宿になる事が多く学問以外の話題で話は尽きませんでした。

もう叶わぬことになりましたが、齋藤さんに実際に動かして見てもらいたかったものがあります。それは以下の4つの写真です。スマホをミラーリングしています(1枚目)。

何をしているのかというと2枚目, 3枚目, 4枚目の様に X Window を立ち上げそこで xmaxima を動かしています。スマホのディスプレイが小さいのでキーボードをスマホの画面に出すと X Window の部分がかなり狭くなり操作は殆ど不可能です。またマウスカーソルの移動も指等ではうまくできないので、ミラーリングをして bluetooth のマウスとキーボードを使っています。xmaxima 内の画面の図は

$$\text{plot3d}(\sin(x^2+y^2), x, *, *, y, *, *);$$

(*は忘れました)を実行したものです。

これを見たら齋藤さんはきっとあの明るい騒がしい声で『お前病気か。でも今のスマホすごいな。俺もやってみよう。』ときっと言ったんでしょうね。

話は変わりますが私が定年間近の時革を細工して幾つかのペンケースを作ってくれました。齋藤さんは工芸の方面でも造詣が深く陶芸や一閑張などの話もしました。ペンケースは未だ手元において使っています。

学会を立ち上げ、発展させてきた様にいつも前向きで決して諦めない、話す相手を楽しくさせる貴重な人でした。あの賑やかで楽しい会話をもう一度したいです。



